

第2回こども110番連絡協議会研修会

「みんなで取り組もう！こどもの防犯対策～こども、大人、地域ができること～」



6月20日（火）に永山公民館で開催されたこども110番連絡協議会研修会に、当校からは2名の保護者が参加しました。

うさぎママのパトロール教室主催、安全インストラクターの武田氏による講演会に参加しました。

武田氏は全国の市町村での講演や、警察庁や文科省と共に一般市民による地域防犯についての活動をされ、メディアや著書でも活躍されております。

市民防犯は犯罪の防止であり、地域づくり・環境づくりが大切との事でした。

子どもの防犯対策では「空白」が生まれる瞬間に注意が必要で、子どもを子どもだけにしない、子どもを一人にしないことが最大の防犯対策だと仰っていました。放課後だけでなく、人が大勢いるショッピングモールでも一人でトイレに行かせる事は危険だそうです。大勢人がいても見守ってくれている訳ではないし、犯罪を起こす気持ちのある人にとってはチャンスになるとの事でした。

子どもの防犯対策としては①大人の「付き添い」②地域の「見守り・助け合い」③子ども自身の「自分を守る力」の3段階があり、①は大きな力となり、②は自然監視となり安全バリアができると仰っておりました。

③については、特定のイメージがつくような不審者という表現をしないことが大切だそうです。

犯罪を起こす人物は性別も年齢もバラバラですし、連れ去り事件の半数は顔見知りによる犯行との事です。また、子どもには「外で、人から、怖いこと、嫌なことをされないように、心や体を守ることを伝え、一人歩き中には周りをよく見てしっかり振り返ること、大人が助けてほしいと言ってきたり、お菓子やカードをくれると言ってきたり、写真を撮りたい、と言ってきても断る力が大切だと仰っており、特に「大人の困り事は大人に助けてもらえばいい。」と仰っているのが印象的でした。

また、周りを気にしていたり、ブザーを複数付けていたり、距離をとっていることで、抵抗力を感じさせる事ができるそうです。ちなみに防犯ブザーにおいては、すぐに取り外せるものもいいとの事でした。ブザーを鳴らして投げるとそちらに注意が向くのでその隙に逃げたり、車に連れ込まれる時に外に投げたりできるからだそうです。

改めて地域の大人としての見守りと、子ども自身の自分を守る力を育てる事の大切さを感じました。

